

みずほマーケット・トピック(2014 年 8 月 29 日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが「3.本日のトピック」はお休みさせていただきます。本日発行の『中期為替相場見通し』をご参照下さい。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ BK Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・今週のドル/円相場は上値重い展開。先週末のジャクソンホール年次シンポジウムにおけるイエレン FRB 議長の講演を受けたドル買いの流れを引き継ぎ、週初 25 日のドル/円は 104 円台前半でギャップオープン。一時週高値となる 104.49 円をつけるも、その後は利益確定のドル売りに 103 円台後半まで押し戻された。だが、S&P500 指数が初めて 2000 を突破するなど米株式市場が堅調となると、ドル/円はじりじりと上昇。翌 26 日はロシア・ウクライナ首脳会談を控え、日経平均株価に利食い売りが入ったものの、下値では買い意欲もあつて下げ渋り、良好な米経済指標を受けてドル/円は 104 円台を回復した。だが、27 日のドル/円は軟調な株価を受けて再び 103 円台後半まで弱含む展開となり、28 日にかけてはウクライナのポロシェンコ大統領が「ウクライナにロシア正規軍の部隊が侵入した」と明言すると、一時週安値となる 103.56 円まで売り進められた。米 4~6 月期 GDP(2 次速報)の上方修正を受けて一旦反発するも、地政学リスクが意識され円買い需要が根強い状況下、本日にかけても 103 円台後半で上値を押さえられる展開となっている。
- ・今週のユーロ/ドル相場も年初来安値を更新する展開。先週末のイエレン議長講演を受けたドル買いに、週初 25 日のユーロ/ドルは 1.32 台前半でギャップダウンしてオープン。一時 1.32 を割り込み年初来安値を更新したが、その後はロンドン市場が休場ということもあって 1.32 近辺で揉み合いとなった。26 日は良好な米経済指標を受けてドル買いが強まるとユーロ/ドルは下落。ジャクソンホール年次シンポジウムでのドラギ ECB 総裁講演を背景に年内追加緩和の思惑が強まる中、翌 27 日には 1.3153 の年初来安値まで値を下げた。だがその後、ショイブレ独財務相がドラギ総裁の発言が過度に解釈されていると発言するとユーロ/ドルは買い戻される展開に。米金利低下も相俟って一時 1.32 台を回復し、翌 28 日には一時週高値となる 1.3222 まで値を上げた。しかし、ウクライナのポロシェンコ大統領の発言を受けて地政学リスクが嫌気されるとユーロ/ドルは反落し、米 4~6 月期 GDP の上方修正も相俟って再び 1.31 台半ばまで値を下げた。その後は 1.3150 のサポートが意識されて下げ渋っており、本日は 1.31 台後半で方向感なく推移している。

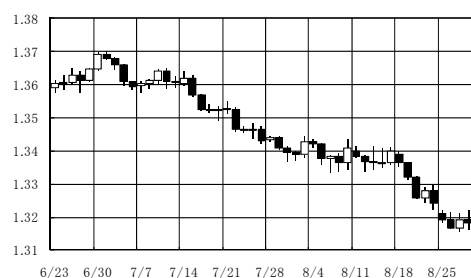
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末		今	週	
		8/22(Fri)	8/25(Mon)	8/26(Tue)	8/27(Wed)	8/28(Thu)
ドル/円	東京9:00	103.86	104.21	104.07	104.09	103.87
	High	104.20	104.49	104.17	104.16	103.92
	Low	103.50	103.86	103.75	103.78	103.56
	NY 17:00	103.93	104.05	104.07	103.88	103.75
ユーロ/ドル	東京9:00	1.3279	1.3197	1.3186	1.3170	1.3193
	High	1.3297	1.3211	1.3214	1.3210	1.3222
	Low	1.3222	1.3184	1.3164	1.3153	1.3159
	NY 17:00	1.3240	1.3191	1.3167	1.3193	1.3181
ユーロ/円	東京9:00	137.95	137.50	137.26	137.08	137.02
	High	138.00	138.05	137.41	137.29	137.21
	Low	137.32	137.08	137.02	136.75	136.43
	NY 17:00	137.57	137.23	137.04	137.03	136.74
日経平均株価		15,539.19	15,613.25	15,521.22	15,534.82	15,459.86
TOPIX		1,286.07	1,291.31	1,285.01	1,285.92	1,280.74
NYダウ工業株30種平均		17,001.22	17,076.87	17,106.70	17,122.01	17,079.57
NASDAQ		4,538.55	4,557.35	4,570.64	4,569.62	4,557.70
日本10年債		0.51%	0.51%	0.50%	0.50%	0.49%
米国10年債		2.40%	2.38%	2.40%	2.36%	2.34%
原油価格(WTI)		93.65	93.35	93.86	93.88	94.55
金(NY)		1,280.08	1,276.90	1,281.24	1,282.60	1,289.69

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 来週にかけて、米国では9月5日(金)の8月雇用統計が最大の注目となる。週次で発表されている新規失業保険申請件数はやや悪化しているものの、趨勢としては引き続き低水準であり、雇用と関係の深いカンファレンス・ボード発表の8月消費者信頼感指数は予想に反して4か月連続の上昇をみせるなど、雇用情勢は着実に回復しているとみられ年初からの平均である23万人をやや下回る程度の雇用増となりそうである。但し、周知の通り、もはや労働市場の状況を判断するのに雇用者数だけでは不十分であり、特に賃金の伸びが確認できるかが重要である。ジャクソンホールでの年次シンポジウムにおいて、イエレン FRB 議長は一旦賃金が上昇し始めると急速なペースで進む可能性に言及しており、賃金の伸びが予想を上振れた場合には利上げ議論が急激に盛り上がる展開には念のため留意しておきたい(市場予想の中心: 非農業部門雇用者数 前月比+22.0万人、失業率 6.1%)。
- 欧州では、4日(木)にECB理事会が開催される。先週22日のワイオミング州ジャクソンホールの年次シンポジウムにおいて、ドラギ ECB 総裁がインフレ期待の大幅低下を口にしたことで今会合への注目度が高まった。講演では ECB として初めてインフレ期待の低下に言及しており、声明文において「インフレ期待はアンカーされている」との箇所に修正が加えられるかは1つ注目したい。一部で報じられているように、このインフレ期待低下発言が量的緩和(QE)導入を前にしての布石との見方も既に出始めているが、ショイブレ独財務相はドラギ総裁の発言が過度に解釈されていると発言し、ECBのハト派化に対して牽制している。今会合でのQE導入は全くもって時期尚早だが、将来のQEの一部ともなり得る資産担保証券(ABS)購入プログラムの準備を加速させており、ECB内で議論が活発化しそうなことは確かである。市場としても追加緩和の可能性を探るべく、大いに注目することとなりそうだ。
- 本邦では、1日(月)に4～6月期法人企業統計が発表される。8日に発表される4～6月期GDPの2次速報は、同統計を受けて設備投資や在庫投資などを中心に改訂されるため、伸び悩みが確認できるようであると追加緩和観測に繋がり易いだろう。

	本 邦	海 外
8月29日(金)		・米8月シカゴ PMI
9月1日(月)	・4～6月期法人企業統計	米 Labor day
2日(火)	・8月マネタリーベース	・米8月ISM製造業景気指数 ・米7月建設支出
3日(水)	・日銀金融政策決定会合(～4日)	・米7月製造業新規受注 ・米地区連銀経済報告(ページブック)
4日(木)		・米8月ADP雇用統計 ・米7月貿易収支 ・米8月ISM非製造業景気指数 ・ECB理事会(フランクフルト)
5日(金)	・7月景気動向指数(速報)	・米8月雇用統計

【当面の主要行事日程(2014年8月～)】

日銀金融政策決定会合(10月6～7日、10月31日、11月18～19日)
 欧州中銀理事会(10月2日、11月6日、12月4日)
 米FOMC(9月16～17日、10月28～29日、12月16～17日)
 G20財務相・中央銀行総裁会議(9月20～21日、ケアンズ)

以 上

国際為替部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー(2014年9月)

月		火		水		木		金		週末	
1		2		3		4		5			
日本	法人企業統計(4～6月期)	日本	マネタリーベース(8月)	日本	日銀金融政策決定会合(～4日)	ユーロ圏	ECB理事会	日本	金融経済月報		
日本	自動車販売台数(8月)	米国	ISM製造業景気指数(8月)	ユーロ圏	GDP(2次速報、4～6月期)	ドイツ	製造業受注(7月)	日本	景気動向指数(速報、7月)		
ドイツ	GDP(2次速報、4～6月期)	米国	建設支出(7月)	米国	製造業新規受注(7月)	米国	ADP雇用統計(8月)	米国	雇用統計(8月)		
米国	Labor Day			米国	米地区連銀経済報告(ページブック)	米国	貿易収支(7月)				
						米国	ISM非製造業景気指数(8月)				
						米国	労働生産性(確報、4～6月期)				
8		9		10		11		12			
日本	国際収支(7月)	日本	マネースtock(8月)	日本	機械受注(7月)	日本	法人企業景気予測調査(7～9月期)	日本	鉱工業生産(確報、7月)		
日本	GDP(2次速報、4～6月期)	日本	第三次産業活動指数(7月)	日本	企業物価(8月)	米国	財政収支(8月)	日本	*月例経済報告		
日本	貸出・預金動向(8月)	日本	日銀金融政策決定会合議事録要旨	米国	卸売売上高(7月)			ユーロ圏	鉱工業生産(7月)		
日本	企業倒産件数(8月)							米国	ミシガン大学消費者マインド(速報、9月)		
日本	景気ウォッチャー調査(8月)							米国	企業在庫(7月)		
米国	消費者信用残高(7月)							米国	小売売上高(8月)		
15		16		17		18		19		G20財務相・中銀総裁会議(ケアンズ)	
日本	敬老の日	ドイツ	ZEW景況指数(9月)	米国	消費者物価(8月)	日本	貿易統計(8月)	日本	景気動向指数(確報、7月)		
米国	ニューヨーク連銀製造業景気指数(9月)	米国	TICレポート(対内外証券投資、7月)	米国	経常収支(4～6月期)	ユーロ圏	消費者物価(確報、8月)	米国	景気先行指数(8月)		
米国	鉱工業生産(8月)	米国	FOMC(～17日)			米国	フィラデルフィア連銀景気指数(9月)				
		米国	生産者物価(8月)			米国	住宅着工(8月)				
22		23		24		25		26			
米国	中古住宅販売(8月)	日本	秋分の日	ドイツ	IFO企業景況感指数(9月)	日本	企業向けサービス価格(8月)	日本	東京都都区消費者物価(9月)		
				米国	新築住宅販売(8月)	米国	耐久財受注(8月)	日本	全国消費者物価(8月)		
								米国	個人所得・消費(8月)		
								米国	ミシガン大学消費者マインド(確報、9月)		
29		30									
		日本	労働力調査(8月)								
		日本	家計調査(8月)								
		日本	商業販売統計(8月)								
		日本	鉱工業生産(速報、8月)								
		日本	新設住宅着工(8月)								
		ユーロ圏	消費者物価(速報、9月)								
		ユーロ圏	失業率(8月)								
		米国	S&P/ケース・シラー住宅価格(7月)								
		米国	消費者信頼感指数(9月)								
		米国	シカゴPMI(9月)								

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー(2014年10月)

月	火	水	木	金	週末
		1 日本 日銀短観(9月調査) 日本 自動車販売台数(9月) 米国 ADP雇用統計(9月) 米国 ISM製造業景気指数(9月) 米国 建設支出(8月)	2 日本 マネタリーベース(9月) 米国 製造業新規受注(8月) ユーロ圏 ECB理事会	3 米国 貿易収支(8月) 米国 雇用統計(8月) 米国 ISM非製造業景気指数(9月)	
6 日本 景気動向指数(速報、8月) 日本 日銀金融政策決定会合(～7日) ドイツ 製造業受注(8月)	7	8 日本 国際収支(8月) 日本 景気ウォッチャー調査(9月) 日本 *企業倒産件数(9月) 日本 金融経済月報 米国 消費者信用残高(8月) 米国 FOMC議事要旨	9 日本 機械受注(8月) 米国 卸売売上高(8月)	10 日本 第三次産業活動指数(8月) 日本 貸出・預金動向(9月) 日本 日銀金融政策決定会合議事録要旨 日本 *月例経済報告 米国 財政収支(9月)	
13 日本 体育の日 米国 Columbus Day	14 日本 企業物価(9月) 日本 マネーストック(9月) ユーロ圏 鉱工業生産(8月) ドイツ ZEW景況指数(10月)	15 日本 鉱工業生産(確報、8月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(10月) 米国 小売売上高(9月) 米国 企業在庫(8月) 米国 生産者物価(9月) 米国 米地区連銀経済報告(ページブック)	16 米国 鉱工業生産(9月) 米国 フィラデルフィア連銀景気指数(10月) 米国 TICレポート(対内外証券投資、8月) ユーロ圏 消費者物価(確報、9月)	17 米国 住宅着工(9月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、10月)	
20 日本 景気動向指数(確報、8月)	21	22 日本 貿易統計(9月) 米国 消費者物価(9月)	23 米国 景気先行指数(9月)	24 米国 新築住宅販売(9月)	
27 日本 企業向けサービス価格(9月) 米国 中古住宅販売(9月) ドイツ IFO企業景況感指数	28 米国 耐久財受注(9月) 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格(8月) 米国 消費者信頼感指数(10月) 米国 FOMC(～29日)	29 日本 鉱工業生産(速報、9月)	30 米国 GDP(3次速報、4～6月期)	31 日本 労働力調査(8月) 日本 家計調査(8月) 日本 商業販売統計(8月) 日本 東京都都区消費者物価(10月) 日本 全国消費者物価(10月) 日本 新設住宅着工(9月) 日本 日銀金融政策決定会合・展望レポート 米国 個人所得・消費(10月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、10月) 米国 シカゴPMI(9月) ユーロ圏 失業率(9月) ユーロ圏 消費者物価(速報、10月)	

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuho-bank.co.jp/forex/esgn.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2014年8月27日	止まらない欧州金利の低下～財政が嫌なら介入のみ～
2014年8月26日	ドラギ総裁の「3本の矢」～驚きずくめのジャクソンホール講演～
2014年8月25日	イエレンFRB議長講演～「見たいように見る」相場～
2014年8月22日	週末版(ユーロ圏からの資金流出見られず～俗説に反するユーロ圏6月国際収支統計～)
2014年8月21日	FOMC議事要旨～「終わりの始まり」をどう考えるか～
2014年8月20日	本邦7月貿易収支などについて
2014年8月19日	最近のサービス収支動向～旅行収支は経常収支を支えるか～
2014年8月18日	ユーロショートカバーに備える地合い～3つの契機～
2014年8月15日	週末版(ユーロ圏4～6月期GDPなどを受けて～日本化議論は疑念を越え、予防的視点へ～)
2014年8月13日	本邦4～6月期GDP1次速報値などについて
2014年8月12日	「国際金融のジレンマ」がもたらす金融政策の通貨政策化
2014年8月11日	改めて認識する「放って置けば円安」シナリオ
2014年8月8日	ECB理事会を終えて～畳み掛けのような口先介入は焦りの表れ？～
2014年8月7日	ハードデータに及び始めたロシア・ウクライナ問題
2014年8月6日	ECB理事会プレビュー～「最良の地合い」で現状維持～
2014年8月5日	BIS国際与信統計における欧州とロシアの繋がりについて
2014年8月4日	ユーロ下落時のユーロ円化説の考え方～認識は変わらず～
2014年8月1日	週末版(ユーロ圏7月消費者物価指数(HICP)などを受けて～ECBとしては「早く結果が欲しい」状況～)
2014年7月30日	ドル建て日経平均株価から滲み出る過熱感
2014年7月28日	ターゲット型LTRO(TLTRO)の展望とユーロ相場について
2014年7月25日	週末版
2014年7月24日	本邦6月貿易収支について
2014年7月23日	米消費者物価指数(CPI)を受けて考える為替相場
2014年7月22日	格差が出始めたユーロ圏住宅価格～BIS年次報告に絡めて～
2014年7月18日	週末版(「事故的なイベント」は押し目の好機～狭いレンジでの処世術～)
2014年7月17日	『展望レポート』中間評価などについて
2014年7月15日	円相場は損益分岐点か？～『さくらレポート』などを受けて～
2014年7月14日	FRB、「今の利上げ」は「将来の利下げ」のため？
2014年7月11日	週末版(ポルトガルの銀行不安を受けて～金融不安は日本化懸念のダメ押し～)
2014年7月10日	巨額和解金騒動から派生する決済通貨の多様化論
2014年7月8日	国際収支や対内対外証券投資などから得られる需給イメージ
2014年7月7日	「生活意識に関するアンケート調査」に見る日本経済の現状
2014年7月4日	週末版(ECB理事会を終えて～市場期待に苛立つドラギ総裁は日銀を思い返すべき～)
2014年7月2日	フィリップス曲線にみるユーロ圏の構造変化
2014年7月1日	ECB理事会プレビュー～QEを仄めかしつつ現状維持～
2014年6月27日	週末版(「動かない相場」は企業の想定通り？～プラザ合意以降で最小の月間レンジに～)
2014年6月26日	14年前半の終わりを前に～史上最小レンジが視野に～
2014年6月24日	強まった「デフレの足音」～ユーロ圏労働コストなどについて～
2014年6月23日	ユーロ圏貿易収支などについて～縮小均衡？～
2014年6月20日	週末版(実質金利からみる最近の為替相場～ユーロに買い安心感、円に売り安心感～)
2014年6月19日	FOMCを終えて～アップサイドリスクを考える時？～
2014年6月18日	ユーロシステムの流動性と欧米中銀のバランスシート比較
2014年6月17日	成長戦略素案について～雇用規制はあらゆる問題の遠因～
2014年6月16日	麻生財務相発言と「蓄積する現預金」について
2014年6月13日	週末版(オバマ米大統領の空爆示唆から思索する為替相場への影響)
2014年6月12日	今の日本は本当に人手不足か？
2014年6月11日	第二次ユーロフォリア？
2014年6月10日	進行するユーロ圏の日本化現象～金利・為替の現状から～
2014年6月9日	ECBIにまつわる3つの「分かり難さ」
2014年6月6日	週末版(ECB理事会を終えて～「百害あって一利なし」のマイナス金利導入～)
2014年6月4日	ユーロ圏5月消費者物価指数(HICP)などについて
2014年6月2日	ECB理事会プレビュー～プラスアルファの読み方～
2014年5月30日	週末版
2014年5月28日	2013年末対外資産・負債残高～過去最大の対外純資産に～
2014年5月27日	「5・23」ショックから1年で思うこと～「魅せる」政策は限界に～
2014年5月26日	労働時間規制について～「第三の矢」の担う雇用規制改革～
2014年5月23日	週末版(過去最大の中期債取得とユーロ債動向～順調に織り込まれるECBへの期待～)
2014年5月22日	日銀金融政策決定会合～緩和は「やるも地獄、やらぬも地獄」か～
2014年5月21日	IMF、対ドイツ第4条協議について～財政出動はもはや義務～
2014年5月20日	出生率目標設定も雇用規制緩和に通ず
2014年5月19日	ドルはどうして上がらないのか？～需給面からの解説～
2014年5月16日	週末版(ユーロ圏1～3月期GDPについて～6月緩和は既定路線に～)
2014年5月15日	欧州議会選挙プレビュー～「真の危機」はブリュッセルにあらず～
2014年5月13日	米金利低下の背景～むしろ間違っているのは米株か？～
2014年5月12日	13年度国際収支統計～強まる「成熟した債権国」の傾向～
2014年5月9日	週末版(ECB理事会を終えて～賽は投げられた。始まる為替市場との心理戦～)
2014年5月8日	イエレンFRB議長議会証言について～利上げ観測の牽制～
2014年5月7日	ECB理事会プレビュー～無駄打ちを避け現状維持～
2014年5月2日	週末版(下振れるユーロ圏のインフレ期待などについて～マイナス圏へ沈むイタリア、スペイン～)
2014年5月1日	日銀金融政策決定会合や「展望レポート」を受けて
2014年4月25日	週末版(南欧債の金利低下をもたらす3つの要因～国債管理体制に組み込まれるユーロシステム～)
2014年4月23日	オーストラリア経済や豪ドル相場は持続可能なのか？
2014年4月21日	円キャリー取引を巡る環境について
2014年4月18日	週末版(日米欧の物価比較～PPIではもうデフレ)。鮮明になってきたユーロ圏の劣後～)
2014年4月17日	完全雇用の背後にあるもの～賃上げ犠牲の果てに～
2014年4月16日	米為替政策報告書～滲み出るドイツ及びユーロ圏への不満～
2014年4月15日	説得力に欠けるユーロ高牽制～通貨政策への傾斜を考える～
2014年4月14日	アベノミクスを巡る国内外の温度差～豪州出張を終えて～
2014年4月11日	週末版
2014年4月7日	ECB版QEについて～14年4月3日は日銀化記念日～
2014年4月4日	週末版(ECB理事会を終えて～「限りなく緩和に近い現状維持」。市場期待は臨界点へ～)
2014年4月3日	物価上昇は価格転嫁と賃金上昇が求められるステージへ
2014年4月2日	外貨準備構成通貨の内訳～ユーロ比率はボトムアウト？～
2014年4月1日	ECB理事会プレビュー～マジックを見せるなら今～
2014年3月28日	週末版(ユーロ圏M3や民間向け貸出について～貸出減少は本当に年内までか？～)
2014年3月26日	本邦10～12月期資金循環統計～際立つリスク性資産の伸び～
2014年3月25日	遂に動き出す欧州銀行同盟～不安を抱えながらの船出～
2014年3月24日	拡大する日米経常収支格差～対照的な日米需給動向～
2014年3月20日	週末版(FOMCを終えて～金利差が幅を利かせるのは14年後半から15年初か～)
2014年3月14日	週末版
2014年3月11日	今一度整理する経常収支の意味～「稼ぐ力」の誤解～
2014年3月10日	本邦1月国際収支などについて～年度赤字転落が視野に～
2014年3月7日	週末版(ECB理事会を終えて～予想外の「手ふら」、完全なるゼロ回答を決定～)